

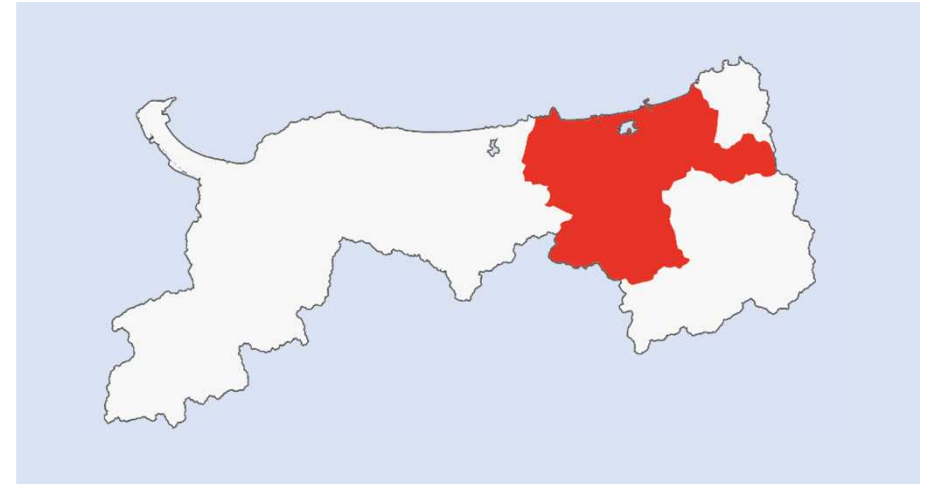
本人の声を起点とした 地域共生社会実現に向けた実践



一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 藤田 和子
鳥取市中央包括支援センター 認知症地域支援推進員 金谷 佳寿子

鳥取市の概況

面積	765.31km ²
総人口 ※1	177,767人
65歳以上人口 ※1	55,806人
高齢化率 ※1	31.4%
要介護認定者数 ※1	10,430人
認知症高齢者数 ※1・2	8,403人
若年性認知症者数 ※1・2	96人
日常生活圏域数	18圏域



包括支援センター数: 11
(基幹型1、地域密着型10)
認知症地域支援推進員: 11名
(各包括支援センターに1名ずつ配置)

※令和7年4月現在

※1: 令和7年3月末現在 鳥取市日常生活圏域別高齢者等情報より
※2: 介護保険申請者のうち、認知症高齢者の日常生活自立度がⅠ以上の者

藤田さんの紹介



看護師として15年勤務、
認知症の義母を9年間介護
した経験を持つ。
2007年アルツハイマー病と
診断された後地元の鳥取市で
認知症の本人発信を始める。

略歴

2010年	若年認知症問題に取り組む会・クローバー立ち上げ（2020年解散）
2011年	鳥取市差別のない人権尊重の社会づくり協議会委員
2014年	日本認知症ワーキンググループ設立に参画 共同代表就任 日本認知症後継イベント（国際会議）に於いてスピーチ
2015年	厚生労働省 認知症施策に関わる研究事業 委員
2017年	A D I 国際会議（京都） 認知症の本人として参加 日本認知症 本人 ワーキンググループに名称変更、一般社団法人化 現在代表理事
2019年	おれんじドアとっとり本人相談員 日本認知症官民協議会バリアフリーワーキング委員 日本認知症官民協議会 実行委員
2020年	厚生労働省から認知症の本人大使「希望大使」に任命 日本認知症官民協議会イノベーションアライアンスワーキング委員
2021年	鳥取市認知症本人大使「希望大使」任命
2023年	「G7長崎保健大臣会合開催記念 認知症シンポジウム」でスピーチ 認知症と向き合う「幸齢社会」実現会議（内閣官房）有識者構成員 日本海新聞「ふるさと大賞2023」受賞
2024年	認知症施策推進関係者会議（内閣官房） 委員
2025年	ヘルシーソサエティ賞受賞

藤田さんの取組

○公民館サロン

「認知症になっても
自分らしい生き方を考えるサロン」

○地域の公民館等で講演

○幼馴染や友人と、日ごろから話し合う (LINEも使って！)

○おれんじドアとттとりのピアサポーター

○認知症本人ミーティング

○鳥取市認知症本人希望大使

身近な場所で、仲間を増やしながら
活動続ける。



計画策定のプロセスを大切に

本人の声を聴き、対話を重ねる

認知症本人ミーティングに参加していた人だけではなく、介護事業所の協力も得て、多様な状態・住まいの本人が計画策定ワーキングに参画。今まで関わりのあった企業等にも参画してもらい、第1回目から本人と共に対話を重ね続けることで、本人の年代や状態にかかわらず一人ひとり思いがあり声を出せることをメンバー皆が実感。



自分の暮らしを通して、自分ごととして考える

従来の支援者視点・事業提供の発想を、本人視点・暮らしの継続の発想に大転換していくために、本人の話を起点にし、メンバー全員が自分の暮らしを通じて、自分ごととして考えるテーマで話し合った。



フォーラムで、本人参画のもと計画策定中であることを市民に共有し、声を集めた。

市民に広く「新しい認知症観」や本人参画での計画策定を伝えるためのフォーラムを開催。アンケートで、自分がこれからも大切にしたい暮らしについて市民の声を集め、計画に反映した。



鳥取市認知症施策推進計画の施策体系

めざすすがた

認知症になっても、自分らしく暮らし続けることができるまち

目標

目標1

認知症であることや、自分の思いを必要な人に伝えることができる

目標2

本人同士が出会い・つながり、経験や工夫を活かしながらやりたいことに挑戦し続けることができる

目標3

自分自身の暮らしのさまざまな場面でかかわる人とともに考え、暮らしやすい環境をともに創ることができる

目標4

自分自身にとって前向きになれるような良い情報を入手し、心身の状態・住まいの場所にかかわらず自らの意思で決めることができる

市民一人ひとりが「新しい認知症観」を理解し、実践する

計画が出来てからが本番！

わたしたちのアクション (基幹包括の推進員として)

- 医療生協の支部運営委員会
- 委託包括の圏域研修
- 介護保険事業所
- 地域の健康づくり推進員
- 庁内の人権推進課
- 東部医師会在宅医療介護連携
推進室主催のイベント 等

様々な場で、多様な人と対話を重ね、
そこで出てきた意見を集約する。



計画の推進・評価のイメージ

○計画の推進・評価は、本人のとともに、対話をしながら、新しい認知症観の考え方が浸透しているか、本人が声をあげやすい地域になっているかを検証していく。

すべての市民が自分の暮らしの中で、この計画を推進・実践

目標が達成できたかどうか、市民一人ひとりが評価

日頃から思いを伝え合う



例) 家族、友達、職場の同僚、職員と利用者、住民同士 など

暮らしの身近な場で話し合ったことを共有



生の声を聴いて考える

声や思いを共有・考える



さまざまな場で…
例) 職場内、デイサービス、町内の会合、本人ミーティング など

各地域で具体的なアクションを考え、実践する

- 地域でも取り組めるよう、地域にかかわる人が集まり、具体的なアクションを考える
- 各地域の特性や強み、つながりを活かせるよう認知症地域支援推進員がコーディネーター役を担う



今後の活動・取組の方向性



鳥取市認知症施策 推進ワーキング グループ(仮称)の 設置



- 認知症の本人や家族、企業、関係団体などで構成
- 会議を定期的に行う
- 取組の共有、実施状況の確認と評価
- より良い取組につながる提案などについて検討
- 認知症地域支援推進員が地域での活動を展開できるようバックアップ・助言

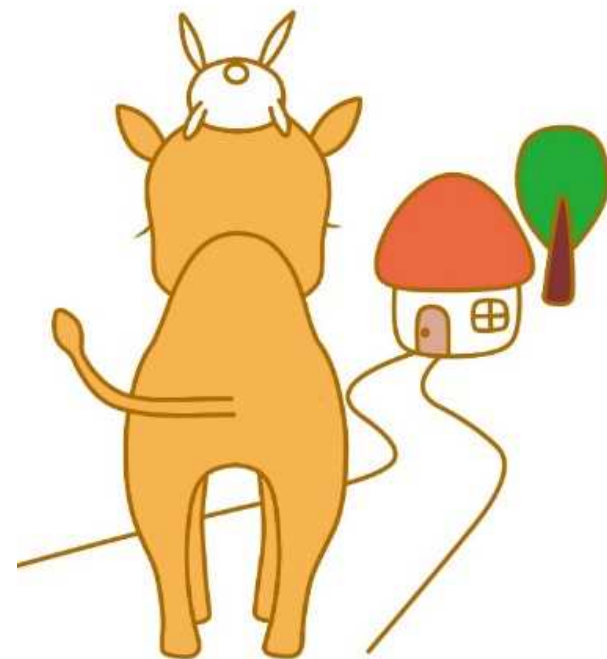
行政も、すべての市民とともに取り組んでいくために、

- 対話を通して聴いた声をもとに、事業の見直し・改善等に反映する
- 実際に聴いた声や、声をもとにした取組状況を広く発信する
- 地域のさまざまな場所で対話が進むような働きかけ・体制づくりを行う

**それぞれの小さなアクションを共有し、目指す姿の実現に向け、
本人とともに、多職種で検討し続ける。**

私たちが目指す姿

「認知症になっても、自分らしく暮らし続けることができるまち」にはまだ届かないけれど、これからも対話・アクション・振り返りを本人とともに継続し、目指す姿の実現に向けて歩み続けていきます。



ご清聴ありがとうございました